

魅力ある特別活動にしていこう！

例年、このような活動をしています！！

- 特別活動を学び合おうⅠ・Ⅱ
- 学級活動実技研修会
- 名古屋市特別活動研究協議会
- 愛生研の例会(月1回)
- アイスブレイクや話し合い活動の学習など
- 模擬学級会を通じた学習会
- 実践者による実践発表
- 実践発表や体験記録などの学習会

こちらも参考に！！

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】」

学級会の進め方や係活動など、特別活動のことが分かりやすく載っています！
 「国立教育政策研究所 特別活動」と検索してください。



「やりがい・ゆとり」

名古屋市特別活動研究会委員長 早川 智



今、子どもの可能性を引き出すための「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が求められています。皆様の職場でも、新たな教育活動づくりが進められているのではないのでしょうか。

さて、大きな変化の中にあり、今後も何が起るかわからない時代であって、私たち教員は、学校行事など特別活動を通して、子どもたちに、どのような姿を示していけばよいのでしょうか？私は、その答えが「やりがい」と「ゆとり」にあると考えます。教員にも個別最適な学びと協働的な学びが必要であり、目標を立てて振り返りをしていく。育てたい子どもの姿を明確にし、同僚と協働する。「仕事だからやる」「言われたからやる」ではなく、自分たちで考えて「やってよかった」と、やりがいを伴う実践を創り出していきたいものです。そして、成長を深めていく中で、よりよい将来の展望をもてるゆとりある働き方も学んで、生き生きとした姿を子どもたちに示していきたいと思えます。

本年度、本会が主催した全市教員を対象とした3回の学習会には、のべ120名以上の参加がありました。また、様々な実践に取り組み、発信もしてきました。私たちの活動には「やりがい」と「ゆとり」につながるヒントがあると自負しています。活用していただければ幸せに思えます。

特別活動を学び合おうⅡ 2022.10.14 ～学級会の映像視聴を通して～

話し合い活動の映像視聴

小学校(低中高学年)の学級会の映像を視聴しました。
 実践者から、話し合い活動のポイントや実際の様子、その後の児童の様子などを聞きました。



話し合い活動のポイント

- 【出し合う場面】
- 理由をはっきりさせて発表したり、質問したりする。
 - 役割やルールについては、後で話し合うようにする。
- 【くらべ合う場面】
- 似ているところや違いを分かりやすくするために、出された意見を仲間分けする。
 - 理由を大切に話し合う。
- 【まとめる場面】
- できるだけ多くの意見のよさを生かすようにする。
 - 自分やみんなにとってよいことをみんなで決める。

まとめ方のスキル

- 意見を合わせる
- 優先順位を決める
- 少しずつ全部行う
- 十分話し合ったら、多数決を行う
- 新しい考えをつくる
- 条件を付ける
- 分かり合ってゆずる

グループ協議

映像を視聴後に、グループに分かれて実践のポイントについて、授業者がどのように児童を支援していたか振り返りました。また、参加者の悩みに指導者が答えました。



参加者の声

- 学級会の議題については、「何をするか」より、学級で困っている場面や仲良くするためなど、「どのようにするとよいか」を考えていくとよいことが分かった。
- 話し合いを深めるために、児童に「友達の意見をしっかり聞くこと」「意見をつなげて発言すること」を指導していこうと思う。
- 話し合いのまとめ方も話し合わせるとよいことが分かった。話し合いをする過程で「納得感」「満足感」などを味わわせ、話し合いの最後に教師の振り返りで称賛していきたい。

名古屋市特別活動研究協議会 2023.1.25

★発表内容の中から、明日から使えるポイントを紹介します★

【実践1】小坂小学校 愛知 佑太 先生 対象:小学6年生

【ねがい】自分の目標に向かって挑戦を続ける児童を育てたい

児童の実態

目標に向かって自分に合った活動を見つけて取り組むものの、活動意欲が継続しない児童がいる

目指す児童像に迫るために

目標を明確にして活動の見通しがもてるようにすること、目標に向かう意欲を継続させることが必要

①ちりつもシート(4枚1セットのキャリアシート)



「現状できているか」、「達成が把握できるものになっているか」の二つの視点で話し合った。

「ちりつもシート」の活用

- (P)自分の目標の設定→(p)1週間の活動内容の設定→
 (D)1週間、活動に取り組む→(C)他者評価と自己評価→
 (A)次の活動に向けて話し合いのPpDCAサイクル

- ①「ちりつもシート」を基にした視点を工夫した話し合いで、明確な目標を設定
- ②「誉メッセージ」(他者評価)を活用した振り返り活動

②誉メッセージ(他者評価)

朝学校に来たときに先生に聞こえる声で挨拶をしているところがとてもよかったよ。次は、目も合わせられるといいね。頑張ってるね。

より

話し合いを通して、「誉メッセージ」が互いの活動意欲を高めるものになるよう、工夫・改善を行った。

- 工夫① 色を変えたり、絵文字を使ったりする。
 工夫② 次も頑張れるように、課題も伝える。

タブレット端末上で交換しました。

自ら設定した目標に対し、達成に向けた活動への意欲を継続し、粘り強く挑戦し続けるようになった。

【実践2】森孝東小学校 竹村 知大 先生 対象:小学6年生

【ねがい】学級の課題を自分事として捉え、解決しようとする児童を育てたい

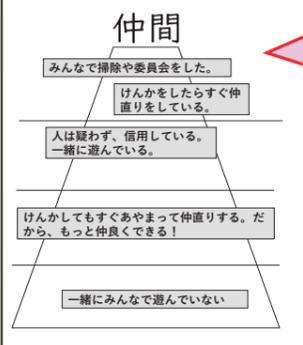
児童の実態

課題を自分事として捉えて行動できなかったり、解決の仕方が分からなかったりする児童がいる

目指す児童像に迫るために

学級の課題を見付け、自分事として捉えることと、課題解決の見通しをもたせることが必要

①学級目標チャート



・学級目標の実現具合を4段階で評価した。
 ・評価の理由を付箋紙に書いた。

課題についてじっくり考えることができた

- ①「学級目標チャート」を活用した話し合い
- ②「活動計画ツリー」で、活動の計画や役割分担を視覚化

②活動計画ツリー



・解決のために手順を明確にして必要なことを出し合った。
 ・活動の計画や役割分担を決めて、共通理解をした。

課題解決の見通しをもつことができた

学級の課題を自分事として捉え、よりよくする活動を考えたり、解決しようとするようになった。